

**平成30年度 第1回
元気県ぐんま21推進会議、群馬県地域・職域連携推進協議会 議事概要**

- 日 時：平成30年5月14日（月）14時～15時30分
- 場 所：群馬県庁舎29階 294会議室
- 出席者：元気県ぐんま21推進会議委員20名（うち代理1名）
元気県ぐんま21推進会議幹事10名（うち代理6名）
食育推進検討部会委員8名（うち6名推進会議幹事を兼ねる、代理出席1名）
事務局 保健予防課長ほか7名
（出席者合計：39名、欠席者：推進会議委員5名、監事0名）

【配布資料】

- ・次第（名簿・席次表・設置要領）
- ・資料1 「元気県ぐんま21（第2次）」の中間評価について
- ・資料2 健康フェスタ実施状況
- ・資料3 健康寿命延伸シンポジウム開催実績
- ・資料4 地区地域・職域連携推進協議会の開催状況
- ・資料5 平成30年度健康増進関連施策
- ・資料6 平成30年度食育関連施策
- ・資料7 「健康づくり協力店」登録制度について
- ・資料8 健康情報ステーション登録事業について
- ・資料9 元気に“動こう・歩こう”プロジェクトについて
- ・資料10 ぐんま広報5月号について
- ・平成28年度県民健康・栄養調査報告書、概要リーフレット
- ・健康フェスタ2018 群馬県禁煙支援県民公開講座
- ・元気県ぐんま21（第2次）概要版
- ・ぐんま食育こころプラン概要版
- ・ぐんま元気（GENKI）の5か条リーフレット・啓発物品

1. 開 会

2. あいさつ：保健予防課長

本日は、御多忙のところ、「元気県ぐんま21推進会議」及び「群馬県地域・職域連携推進協議会」に御出席いただき感謝申し上げます。

県の健康増進計画である「元気県ぐんま21（第2次）」を策定してから本年度は5年目を迎える。このあと、議事の中でも御説明をさせていただくが、今年度は中間評価の実施も検討している。今年度は配布した啓発物品にもあるが、今年度は身体活動・運動に力を入れて推進を図ることを目指している。群馬県民は車の利用が多いため、運動・身体活動に取り組んでいる人が少ないことも県民健康・栄養調査結果からもみえている。事業の推進にあたり、御出席の皆様から良いお知恵をいただきたい。

また、地区地域・職域連携推進協議会は各地域で開催していただいているところであるが、顔の見える関係づくりが必要であると考えている。

本日は報告事項が多くなるが、皆様からの忌憚ないご意見をいただきたい。

限られた時間ではあるが、有意義な会議となるようお願いしたい。

3. 委員紹介

時間の都合上、異動等に伴い、変更された委員の方々のみ紹介。
群馬県こころの健康センター 所長 佐藤委員

4. 議 事

(1) 平成29年度の推進状況について

事務局より、資料1～4に基づき説明。

- ・「元気県ぐんま21（第2次）」の中間評価について
- ・健康フェスタ2017実施状況
- ・健康寿命延伸シンポジウム開催実績
- ・地区地域・職域連携推進協議会の開催状況

(質疑応答)

- (委員) 産業保健師の立場で、地区・地域職域連携推進協議会に参画させていただいている。実務者会議も開催されているので、市行政担当者、産業保健師、保健福祉事務所担当者等で、横の連携を図り、できることはないか等の相談ができる場としても活用させていただいている。昨年度は、当社の健康づくりイベントの際に保健福祉事務所から物品を借用させていただいた。(雨で使用できなかったが)。昨年度の3月の会議ではがんの就労支援についても新しい情報を提供いただけるなど、有意義な会議であると感じている。
- (委員長) がんの就労支援は、昨年度から始まった事業であるが、県内各地区での会議でとりあげただけだと、新しい情報を地域保健と職域保健で共有することができると思う。
- (委員) 平成22年度と平成28年度の健康寿命を比較すると男性は延びており、よい傾向のように見えるが逆に日常生活に制限のある期間は増加している。どのような要因があると考えているか。
- (事務局) 健康寿命については、資料1の中間評価報告書素案にも記載しているが、他の指標がどの程度の影響を及ぼしているのかも踏まえて判断していきたいと考えている。日常生活に制限のある期間が増えているのは、健康寿命の延び以上に平均寿命が延びているからである。今回の中間評価としては「変わらない」と判断させていただいた。
- (委員長) 成人の喫煙率は「変わらない」という評価である。群馬県医師会では受動喫煙対策に御尽力いただいているが、いかがか。
- (委員) 県内には喫煙できる場所が多いことが要因であるかと思う。資料1では職場の喫煙率は目標0%に対して依然高い割合であるため、減少させる対策が必要である。飲食店は従業員にとっては職場でもあるため、禁煙を進めていく必要がある。未成年者については、東京都は「東京都子どもを受動喫煙から守る条例」を施行している。群馬県でも積極的に進めていく必要がある。
- (委員長) 併せて、県庁内も禁煙を進めていくことが大切である。
- (事務局) 現在の国会に提出されている健康増進法一部改正を踏まえ、健康増進計画の目標値の変更も含めて検討していく必要があると考えている。また、行政機関・医療機関以外である学校の敷地内禁煙の実態把握や未成年の喫煙等についても教育委員会と連携をとり、進めていきたいと考えている。
- (委員長) 未成年の喫煙については教育委員会で実態把握ができるのではないかと考えており、

前々からお願いしているがなかなか実現できていない。

県民の健康づくりに向けて積極的に推進できるよう、連携を取っていけたらと思うので皆様の御協力をお願いしたい。

(2) 平成28年度県民健康・栄養調査の結果について

事務局より、配布資料に基づき説明

・平成28年度県民健康・栄養調査報告書及び概要リーフレット

(質疑応答)

- (委員長) 喫煙率の結果をみると、国民健康・栄養調査の都道府県別の結果より高い数値となっている。年齢階級別にみると男性は20歳代から多くが喫煙をしている。おそらく未成年から喫煙しているのではないかと推察している。未成年の喫煙率も把握することが必要であり、女性では20代から40代にかけて増加していることを注視した対策も必要であるかと思う。
- (委員) 未成年の喫煙については、大学生に調査したことがある。大学1年・2年である、未成年の約1割が喫煙していた。吸いはじめが中高生ということもあるので、中学・高校の未成年に対する喫煙防止対策の実施が必要ではないか。
- (委員長) 県医師会の看護学校の喫煙率が高いということを伺ったことがある。今後、色々なデータが集積されていくことが必要であると考えます。
- (委員) 食塩摂取量の年次推移をみると、調味料の占める割合が大きく、特にその他の調味料が多いと思うがどのようなものが多いのか。
- (事務局) 食塩摂取量の多い人がどのような食品や料理、料理の組み合わせが多いのかなどの分析結果は、別途食事分析報告書にてまとめている。今年度はこれらの結果を県民にわかりやすく伝えるための普及版の媒体作成を進めていく。その結果からみると、料理の組み合わせでは「主食を重ね食べ」、その他調味料としては使用量が多かったのは顆粒だしやルー関係である。
- (委員) 今までは、みそ汁の回数を減らす、漬物の量を減らすなどを健康教育で話していたが今後は結果も踏まえて、県民に周知していきたい。
- (委員) 女性の日常生活に制限のある期間が男性より長いことは、身体活動の低いこととも関連があるのではないかと感じる。身体活動を男性に近づけていくことが必要ではないかと感じた。
- (委員長) 県民は運動をしにくい環境などがあるのか。地区地域・職域連携推進協議会などでも取り上げて、連携して対策を検討していただけるとよいのではないかと。よい生活習慣はよい社会環境で営まれる。野菜摂取量の増加も同様であり、地域保健と職域保健の連携によって良い方向性が生まれるのではないかと。
- (委員) 喫煙は、群馬県薬剤師会では、調剤薬局の窓口の機会を通して、禁煙の周知を実施している。今回の県民健康・栄養調査結果では男性の50歳代の喫煙率が急激に減少しているが、他の調査結果でも同様な傾向をみたことがある。どのような要因が考えられるのか、情報を共有させて欲しい。
- (事務局) 特定保健指導による禁煙指導の機会が増えていることも、一つの要因かと考えている。今後は、国保データベースの分析等を進め情報共有させていただきたい。
- (委員) タバコの害はすぐに表れてこない。長年の喫煙が50歳代あたりで自覚症状が出て、禁煙をするのではないかと考える。
- (委員) 歩数の平均値を資料1で確認すると、20～64歳の男性の歩数が22年の結果から急激に減少している。年代別の状況について教えてほしい。

(事務局) 28年度結果は、配布した調査結果概要リーフレットのとおりであります。22年度の結果については、別途報告させてほしい。

(3) 平成30年度の取り組みについて

事務局より、資料5～資料9、配布資料に基づき説明

- ・資料5 平成30年度健康増進関連施策
- ・資料6 平成30年度食育関連施策
- ・資料7 「健康づくり協力店」登録制度
- ・資料8 健康情報ステーション登録事業
- ・資料9 元気に“動こう・歩こう”プロジェクト
- ・健康フェスタ 2018 群馬県禁煙支援県民公開講座

(質疑応答)

(委員長) 今年度も新たな事業を進めていることで意欲的に推進されていることがよくわかった。健康フェスタ2018のパネリストとして登壇される瀧上知恵子先生は、群馬大学公衆衛生教室の非常勤講師をしていただいている先生であり、ぜひ参加していただきたい。

(委員) 健康づくり協力店の紹介があったが、館林保健福祉事務所の今年度の取り組みを紹介させていただく。今月、地区地域・職域連携推進協議会の実務者会議を開催しており、事業所の皆さんと連携して、事業所給食を健康づくり協力店につなげようと考えている。また、桐生保健福祉事務所では、推進協議会の委員として4つの企業に参画していただいている。職域の皆さんと連携して進めていきたい。

また、桐生保健福祉事務所地区地域・職域連携推進協議会の実務者会議を開催したところ、企業は健康に関する意識が高いと実感している。ある企業では従業員の運動習慣の定着に向けて敷地内にジムを作ったところもある。とてもきれいな施設ができたが、利用者に偏りがあるという。今後も企業と情報を共有させていただき連携していきたい。

(委員) 当社では、管理栄養士養成施設の実習生を受け入れている。従業員食堂の管理栄養士が常勤でないため、産業保健師が学生の対応をしている。

管理栄養士の学生さんの実践しやすい知識は、保健師・看護師と異なる視点であるため、参考になる。納豆を健康のために多く食べている人がいるが、納豆のたれは食塩相当量が1グラム程度あるということで、たれの量を半分にして食べるとよい。などの身近な知識は参考になった。

(委員) 今年度は身体活動を取り上げていただくことで、健康運動指導士会群馬県支部でも期待している。医療機関で運動指導を行っているが、特定保健指導では、運動と疾患とのつながりを適切に指導できていないようにみうけられる。運動指導は専門的な指導が必要であるため、健康運動指導士を活用していただきたい。

(委員長) 今年度の新たな取り組みに向けて、御出席の各団体の皆様、専門家の立場から協力をお願いしたい。

(4) 報告・情報提供

事務局より資料 10 により説明、普及啓発物品の紹介

- ・資料 10 ぐんま広報 5 月号について

委員及び幹事課より情報提供

- ・全国健康保険協会群馬県支部

「元気に“動いて”運動習慣を身につけようぐんま元気 (GENKI) の 5 か条歩き方教室」の紹介

- ・群馬県栄養士会

第 6 回栄養健康フォーラムの紹介

- ・群馬県健康づくり財団

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2018 ぐんまの紹介

- ・食品・生活衛生課

食物アレルギーリーフレット、ぐんま食の安全情報等の紹介

- ・群馬県薬剤師会

平成 27 年度から健康サポート薬局制度が始まっている。140 件の目標で現在は 15 件である。「サポート薬局」のワードを広めていただきたい。

5. 閉 会